

# ま え が き

情報教育の専門・非専門によらずどの大学においても表計算ソフト Excel の技術習得は全学生が受講する必修科目であり、全員がそのコースにて必要とされる最低限の能力や技量を身に付けなければならない。しかし、Excel 技術習得は思いのほか難しく、特に文系学生は数字の羅列により勉強意欲が消失する傾向にある。すなわち、理系の学生も含め、どんな教え方をしても学生本人のモチベーションがなければ、Excel のスキルを習得することはできない。

ここで重要な要素は、初めて Excel に接する学生が興味やおもしろさを継続して感じ、学習への意欲を保持できるか否かにある。しかしながら、学生の Excel 学習へのモチベーションを保つだけでなく、さらにより興味を湧き立たせる例題や課題を用意することは難しい。従来、Excel 教材を工夫するなど、学生のモチベーションを保ついろいろな方法が試みられているが、従来は数値が中心の数学的な例・演習課題が多く、「遊び」が少なく学習意欲を継続することは難しかった。

本書では、学生のモチベーションを保ちながら Excel の基礎を習得することを目的として、学生の興味を引きそうな例や演習課題を開発した。すなわち、数学が苦手な学生、特に文科系の学生にはしきいの高い数学的な演習課題を極力減らし、文字列処理を基本にした身近な話題を例・演習課題とした。本書で開発した例と演習課題は、どのようにして学生の興味を引くかという観点からつぎの五つのカテゴリに分かれる。

- (1) 身近な話題を含む演習課題　学生に密接な関係のある大学や地域の話題を演習課題の中に取り入れる。
- (2) スポーツ選手やアイドル名を含む演習課題　今はやりで学生に人気のあるスポーツ選手やアイドルを演習課題の中に登場させる。

- (3) 季節感のある演習課題 クリスマスなどの講義の開講時期に合わせた演習課題により学生の興味を引く。
- (4) ゲーム風演習課題 現在の学生の興味を引くゲームそのものまたはゲームの一部を体験させる。
- (5) 占い演習課題 学生，特に女子学生に人気のある運勢や占いを演習課題に含める。

本書は以下の1～9章で構成される。1～2章では、Excelのリボンの使用方法を述べたのち、Excelの基本機能である、表の作成、保存、印刷について学ぶ。3～4章では、作成した表から棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフなどのグラフ表示の方法と、データにより表示を変えることのできるIF関数について学ぶ。また、単純な2分岐IFだけでなくIF関数の入れ子により多分岐する方法について学ぶ。5章では、関数の応用として文字コード、余り、乱数を求める方法を学ぶ。6章では、高度な関数の中で応用範囲の広いVLOOKUP関数、HLOOKUP関数について詳しく学ぶ。この関数を理解することにより、従来の複雑なIF関数の入れ子の代わりに簡単なVLOOKUP関数やHLOOKUP関数を用いることを学ぶ。7章では、文字列や日付を扱う関数を学ぶことにより、占いや万年カレンダーのような興味深い課題を解くことができる。8～9章では、ExcelVBAについて学び、Excel操作を自動化したりより柔軟な応用のきくアプリを作る方法を学ぶ。

本書は大学等の講義においても使用できるように、各章において例と演習課題を用意している。例は実際にExcelに入力してみることで結果を確認することができる。演習課題はExcelの表を作成するものであるが、解答例やデータをWebページからダウンロードすることができ(p.39参照)、自分で作成したExcelの表と比較し学習することができる。

一見簡単に見えるExcel学習もモチベーションが下がれば難しいものとなる。本書はモチベーションを保つ試みの一つとして学生が興味をもちそうな例と演習課題を作成した。是非、本書を読んで一人でもExcelが好きな学生が現れることを願ってまえがきとする。

なお、本書の作成にあたって北海道工業大学メディアデザイン学科 木下正博教授には、例や演習課題に関して貴重な意見をいただいた。この場を借りて謝意を表したい。

最後に、われわれをいつも陰からサポートしてくれている妻の大堀真保子、西川明子、両親の深井実とレイ子に最大の感謝の意を表したい。彼ら彼女らの支えがなければこのテキストが完成することはできなかつたろう。そして、本書の企画から完成まで、さまざまな面でご助力いただいたコロナ社の関係者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

2014年2月

著者を代表して 大堀 隆文

執筆分担

---

1, 2, 8, 9章	深井 裕二
3, 4章	西川 孝二
5, 6, 7章	大堀 隆文

---

# 目 次

## 1. Excel 入 門

1.1 Excel と は .....	1
1.2 Excel の 画 面 .....	3
1.3 リボンの操作 .....	6
1.4 データの入力 .....	11
1.5 表 の 作 成 .....	15
1.6 表の保存と印刷 .....	18
1.7 演 習 課 題 .....	19

## 2. 表 の 計 算

2.1 数式と表の計算 .....	24
2.2 関数による合計・平均計算 .....	26
2.3 相対参照と絶対参照 .....	28
2.4 相対参照と絶対参照の使い分け .....	32
2.5 演 習 課 題 .....	36

## 3. グラフ表示

3.1 棒グラフと折れ線グラフ .....	40
3.2 3D棒グラフ, 積み上げ棒グラフ, 円グラフ .....	45
3.3 横棒グラフ, レーダーチャート, 複合グラフ .....	51
3.4 グラフの背景処理 .....	57
3.5 演 習 課 題 .....	59

## 4. 関数計算の基礎

4.1 単純 IF 関数 .....	67
4.2 IF 関数の入れ子, RANK 関数 .....	69
4.3 IF 関数の入れ子の応用, グラフ散布図の表示 .....	72
4.4 演習課題 .....	74

## 5. 関数計算の応用

5.1 MOD 関数 .....	78
5.2 CODE 関数 .....	81
5.3 POWER 関数 .....	82
5.4 RANDBETWEEN 関数 .....	83
5.5 演習課題 .....	85

## 6. 高度な関数計算

6.1 VLOOKUP 関数 (完全一致型) .....	91
6.2 VLOOKUP 関数 (近似値型) .....	97
6.3 HLOOKUP 関数 (完全一致型) .....	98
6.4 HLOOKUP 関数 (近似値型) .....	101
6.5 演習課題 .....	103

## 7. 日付関数

7.1 日付のシリアル値 .....	107
7.2 TODAY 関数と NOW 関数 .....	108
7.3 DATEDIF 関数 .....	109
7.4 YEAR, MONTH, DAY 関数 .....	110
7.5 演習課題 .....	112

## 8. Excel VBA の基礎

8.1	はじめての VBA	115
8.2	ブックを VBA で操作	120
8.3	シートを VBA で操作	123
8.4	セルを VBA で操作	126
8.5	ボタンを作って VBA を実行	129
8.6	演習課題	133

## 9. Excel VBA の応用

9.1	変数の基本	136
9.2	オブジェクト変数	138
9.3	プログラム制御 (条件判断)	141
9.4	プログラム制御 (反復処理)	144
9.5	イベントとプロシージャ	148
9.6	演習課題	151

あ	と	が	き	155
索		引		156

# 1

## Excel 入門

本章では、コンピュータ入門者も含め、これから Excel を学ぶユーザーを対象として、Excel とはどのようなものか用途や特徴を紹介し、Excel の操作において基本となる画面構成および操作方法について、また、さまざまなデータの入力および表の作成方法について説明する。特に Excel 操作で重要となるリボンについては、その特質と機能に触れ、今後の学習に向けて、ストレスがなく能率の良い操作法を習得していきたい。これらは、以降の章において前提となる基礎知識でもあるから、特に Excel が未経験のユーザーにとっては、十分に理解し経験と知識を身に付けておくことが望ましい。

### 1.1 Excel とは

Microsoft Excel は、マイクロソフト社 (Microsoft Corporation) が提供する **表計算ソフト** である。表計算ソフトは、作表、数値の計算や分析を目的としたソフトウェアで、別名 **スプレッドシート** (spreadsheet) と呼ばれる。また、同社によるビジネス向きソフトウェア製品群である Microsoft Office の一つとして、他のソフトとの連携ができ、仕事あるいは他目的においても、さまざまに活用できる。表計算ソフトの基本的な仕組みは、画面上のセルと呼ばれる表のマス目に数値を入力、あるいは数式を設定しておき、自動的に計算し、表示するものである。Excel の数式には、四則演算のほか、合計関数、平均関数をはじめとして、カウント、四捨五入、条件判断関数、検索系関数、数学系関数、財務関数、エンジニアリング関数、論理関数、データベース関数、日付や文字列を操作する関数など、バラエティに富んだ関数があり、分野や目的に応

じて自在に活用することができる。また、グラフ化や分析処理など実用的な機能も兼ね備えている。さらに、複雑な条件判断や反復計算といった、数式では困難な処理に対して、VBA（Visual Basic for Applications）という簡易なプログラミング言語機能も搭載しており、情報システムや自動化システムへの応用も可能である。

2013年にExcel 2013バージョンがリリースされており、これまで幾度ものバージョンアップによって、その機能と操作性が向上し、より洗練されたソフトウェアツールとなった。Excel 2013の新機能について紹介しておく、まず見た目がすっきりとしており、なおかつ結果をすぐに引き出せるように、使いやすく能率の良いユーザーインターフェイス（ソフトウェアの外観や操作方式）に仕上がっている。これには、タッチ操作を意識した画面要素の動きや、タッチモードへ切り替える機能なども備わっている。

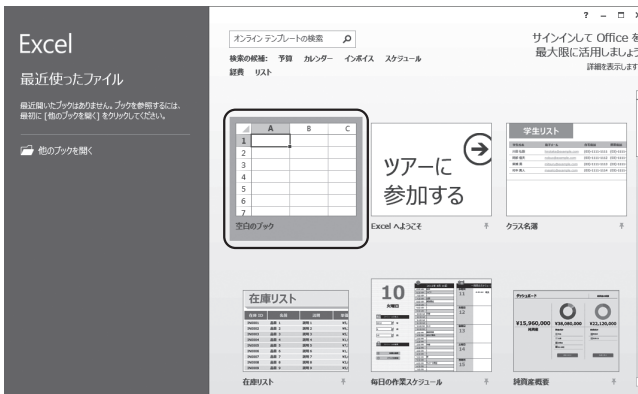
また、連続したデータを自動的に入力することで、ユーザの作業を自動的に仕上げるようなフラッシュフィル機能、グラフを作る際、データが、さまざまなグラフでどのように表示されるか確認でき、データに最も適したグラフを推奨してくれるおすすめグラフ機能も追加された。ボリュームが多かったグラフの設定機能については、シンプルにして必要な機能を見つけやすくしている。さらに、より少ない操作ステップでデータ分析ができるクイック分析機能なども含め、われわれの作業能率を高める補助となる機能が強化されている。

そして、新しいExcel関数、グラフ表示を豊かにするデータラベル機能の向上、パワフルなピボットテーブル機能をはじめとし、大量のデータの分析が能率良くできるなど、ユーザニーズに応じた機能の追加が行われている。また、オンラインでファイルを保存、共有することや、スマートフォンやタブレットPCを使用したオンライン会議でExcelシートを共有することもでき、時代のニーズに応じた機能が追加されている。これらは、これからのインターネット活用形態にも合っており、ユビキタスネットワーク社会（ユビキタス：あらゆる場所で利用可能）の道具としての活用も考えられる。



## 1.2 Excel の画面

Windows のスタート画面などから Excel 2013 を起動すると、**図 1.1** の Excel のスタート画面が表示される。Excel のデータは**ブック**（別名：ワークブック）と呼ばれるファイルであり、これは PC のディスク、USB メモリ、インターネット上のディスクスペースなどへの保存や、電子メールへの添付ができる。



**図 1.1** Excel のスタート画面

ブックを新規作成する場合は、スタート画面から「空白のブック」を選択するか、他のテンプレートの中から目的に近いものを選んで編集することもできる。また、保存してあるブックを開く場合は、画面左側の「最近使ったファイル」に表示されるものから選択するか、「他のブックを開く」を使用する。「他のブックを開く」をクリックした場合、「開く」ウィンドウが表示され、「コンピューター」→「マイドキュメント」、「デスクトップ」といった場所が選択できる。それ以外の場所を選択する際は、「参照」をクリックすればよい（**図 1.2**）。

また、Windows 上で、ブックが保存されているフォルダを開き、対象のブックをダブルクリックすることで直接開くこともできる。この場合、ブックのファイル名には、末尾に「.xlsx」といったファイル種類を表す**拡張子**が付い



図 1.2 ブックを開く

ているので、拡張子に関連づけられた Excel が自動的に起動する仕組みである。

では、Excel のスタート画面から [空白のブック] を選択してブックを新規作成してみる。図 1.3 に示す Excel の編集画面は、主に上部のリボンと本体部分のシート（別名：ワークシート）から構成されている。リボンには、さまざまな操作を行うためのボタンや選択肢（ドロップダウンリスト）などが並んでいる。

リボン上のボタン類は、シンプルで見やすくするために、立体的なボタンで

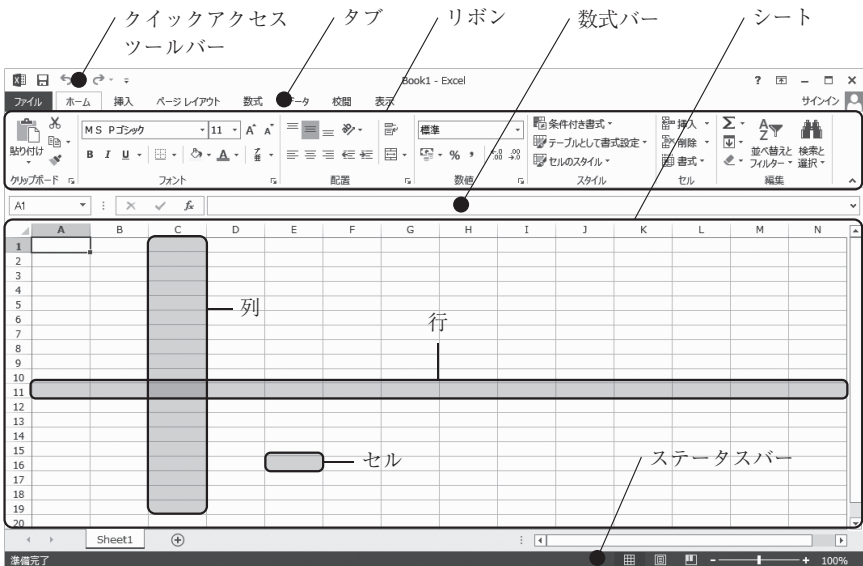


図 1.3 Excel の編集画面

ザインではなく平面的なデザイン（フラットデザイン）が採用されている。シートは行（1, 2, 3…）と列（A, B, C…）で構成され、表形式で区画されている。各マス目をセルと呼び、各セルに数値、文字、数式、書式など、さまざまな情報を入力、設定できる。個々のセルにはセル番地がついており、例えばA列の12行目のセル番地は「A12」で表される。なお、一つのブックには複数のシートを追加することができる。他の画面要素として、**クイックアクセスツールバー**は、ユーザによるカスタマイズが可能である。ここによく使うボタンなどを登録しておけば、Excelの機能をすばやく実行できる。ボタンの登録方法は、リボン上のボタンや各種メニュー項目のところで、マウス右クリック→[クイックアクセスツールバーに追加]で行う。**数式バー**では、セルに入力する数式を編集することができ、特に長い数式を扱うとき便利である。**ステータスバー**では、シートの表示倍率などを調整することができる。

Excelのウィンドウ幅を広げたり狭めたりすると、それに合わせてリボンの表示内容が変化する。つねにリボンの全体像を維持しつつ、**グループ**内では、よく使用されるコマンドを優先的に表示するようにアレンジされ、状況に合わせて最適な操作性をユーザに提供する。もしウィンドウ幅が狭い状態でも、マウスクリックによって隠れているグループの項目がポップアップ表示される（図1.4）。



図 1.4 ウィンドウ幅に応じたりボン表示

### 1.3 リボンの操作


リボンの機能構成について説明する。Excelの豊富な機能は、まず**タブ**ごとに大きく分類され、それぞれが異なるリボンをもつ。各タブのリボン表示は、さらに**グループ**ごとに関連機能がまとめられている。各タブの切り替えは、単にタブをクリックすればよいが、[ファイル]タブだけは特別で、そこから戻る場合は、 ボタンか、ESC キーを使う。[開発]タブは、VBAなどのプログラミング機能（[コード]グループ）を含んでおり、それらは開発者向け機能なので、標準では非表示になっている。VBAを使う場合、開発タブを表示するには、[ファイル]タブ→[オプション]→[リボンのユーザー設定]→[メインタブ]内にある[開発]を選択すればよい。常時表示されているタブ（**コアタブ**）について、機能および各リボンの外観を、表1.1および図1.5に示す。

図1.6の例は、グラフを挿入した場合であるが、新たに[デザイン][書式]コンテキストタブが追加され、その上には[グラフツール]コンテキストタブセットが表示されている。コンテキストタブとは、状況に応じて表示されるタ

表1.1 コアタブ

タブ	リボンに含まれるグループ
ファイル	ブックの新規作成、開く、上書き保存、名前を付けて保存、印刷、閉じる、オプション
ホーム	クリップボード、フォント、配置、数値、スタイル、セル、編集
挿入	テーブル、図、アプリ、グラフ、レポート、スパークライン、フィルター、リンク、テキスト、記号と特殊文字
ページレイアウト	テーマ、ページ設定、拡大縮小印刷、シートのオプション、配置
数式	関数ライブラリ、定義された名前、ワークシート分析、計算方法
データ	外部データの取り込み、接続、並べ替えとフィルター、データツール、アウトライン
校閲	文章校正、言語、コメント、変更
表示	ブックの表示、表示、ズーム、ウィンドウ、マクロ
(開発)	コード、アドイン、コントロール、XML、変更



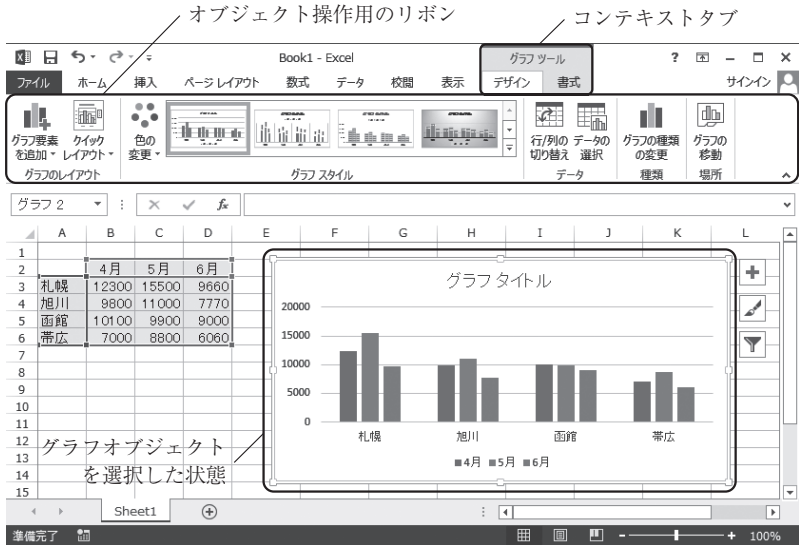


図 1.6 コンテキストタブの表示

表 1.2 主なコンテキストタブ

オブジェクトを挿入するコアタブ機能	コンテキストタブセット	コンテキストタブ		
挿入→テーブル→ピボットテーブル	ピボットテーブルツール	分析	デザイン	
挿入→テーブル→テーブル	テーブルツール	デザイン		
挿入→図→ 画像/オンライン画像/スクリーンショット	図ツール	書式		
挿入→図→図形	描画ツール	書式		
挿入→図→SmartArt	SMARTART ツール	デザイン	書式	
挿入→グラフ→各種グラフ	グラフツール	デザイン	書式	
挿入→グラフ→ピボットグラフツール	ピボットグラフツール	分析	デザイン	書式
挿入→スパークライン→ 各種スパークライン	スパークラインツール	デザイン		
挿入→テキスト→ヘッダーとフッター	ヘッダー/フッターツール	デザイン		
挿入→テキスト→ テキストボックス/ワードアート	描画ツール	書式		
挿入→記号と特殊文字→数式	描画ツール	書式		
	数式ツール	デザイン		
開発→コントロール→挿入	描画ツール	書式		

タンと、アイコン部分（ラベル）と ▼部分が独立してハイライト表示する分割ボタンがある。分割ボタンでは、▼をクリックすると他と同様にメニューが表示されるが、ラベルのクリックは直ちに機能が実行される。さらに、分割ボタンでは、最後にメニュー部分から選択した機能がラベルにアイコン表示されるので、同じ機能を連続して使うような場合、ラベルのクリックだけで素早く実行できる。このようなリボン操作におけるルールは、Excel をストレスなく能率よく使用するために理解しておきたい（図 1.7）。

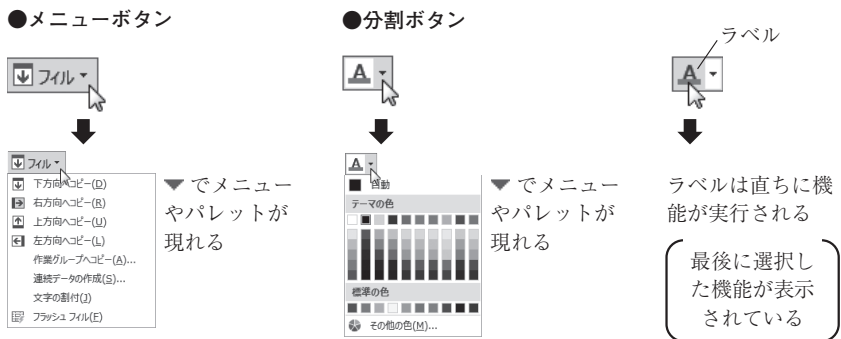


図 1.7 リボン上のボタン動作

リボンのグループ右下の マークは、**ダイアログボックス起動ツール**と呼ばれ、リボンに表示されている機能も含め、そのグループに関するほぼすべての機能は、このダイアログボックスから探すことができる（図 1.8）。

リボン上の各ボタンの機能がわからない場合、ボタンにマウスマウスカーソルをあけると、図 1.9 のような簡単な説明（**ツールヒント**）が表示される。さらに、ツールヒントの **詳細情報** で詳しい操作手順のヘルプ画面を見ることができる。このような機能は、迅速な学習に役立つので、ぜひ活用するとよい。

リボンは、右下の [リボンを折りたたむ] ボタンで非表示にすることもできる。それにより、シート領域をより広く表示して作業できる。ステータスバーのズーム機能と合わせて活用するとよい。リボンを再表示する際は、タブ部分で右クリック → [リボンを折りたたむ] を選択してチェックをはずす（図 1.10）。

# 索引

<b>【あ】</b>	切り捨て	27	——をコピー	124
アクティブシート	123	<b>【く】</b>	——を選択	124
アクティブなシートを得る	124	近似値	99, 101	——を追加
アクティブブック	123	クイックアクセスツールバー	5	集合縦棒
<b>【い】</b>		クイック分析	16	集合縦棒グラフ
イベント	148	グラフエリア	41	循環参照
イベント駆動型	148	グラフエリアの書式設定	58	条件式
印刷プレビュー	19, 124	グラフタイトル	41	条件判断
<b>【え】</b>		グラフツール	43	小数点以下の表示桁数
エラー値	11	グラフ要素の追加	43	書式
円グラフ	40, 49	グループ	5, 6	書式設定
演算子	24, 142	<b>【け】</b>		ショートカット
<b>【お】</b>		罫線	15	ショートカットキー
オートフィル	13	桁区切りスタイル	15	シリアル値
オブジェクト	7, 127	検索値	91, 98	真
——への参照	138	検索の型	91, 99, 101	<b>【す】</b>
オブジェクト型	137, 139	<b>【こ】</b>		数式
オブジェクト変数	138	コアタブ	6	——のコピー
折れ線グラフ	43	校閲	6	——の表示
<b>【か】</b>		合計	27	数式バー
開発	6, 115	固有のオブジェクト型	137	数値
拡張子	3	コンテキストタブ	6	ステータスバー
可読性	151	コンテキストタブセット	6	ステートメント
関数	12, 130	コントロール	129	スプレッドシート
関数式	24	<b>【さ】</b>		<b>【せ】</b>
完全一致	97, 99, 101	散布図	72	制御構造
<b>【き】</b>		<b>【し】</b>		整数型
偽	142	式	24	絶対参照
記号と特殊文字	18	軸の書式設定	53	セル
基本データ型	139	軸ラベル	45	——に値を設定
行	5	時刻型	137	——に数式を設定
行番号	99	シート	4	——の値を消去
		——を印刷	124	——のオートフィル
				——の塗りつぶし色設定
				——の表示形式
				——の文字色を設定



——をコピー	126
——を選択	126
——を中央揃え	126
セル参照	24, 126
セル範囲	5, 24
セル番地	29
ゼロ除算のエラー	
<b>【そ】</b>	
相対参照	28, 32, 97
挿入	6
<b>【た】</b>	
ダイアログボックス起動	
ツール	9
タブ	6
単精度浮動小数点数型	137
<b>【ち】</b>	
中央揃え	15
長整数型	137
<b>【つ】</b>	
通貨型	137
積み上げ棒グラフ	45, 47
ツールヒント	9
<b>【て】</b>	
テキスト	11
データ	6, 11
データ型	11, 136, 137
データ系列の書式設定	59
データラベルの追加	47
テーブル	16
<b>【と】</b>	
独立性	151
<b>【な】</b>	
流れ図	141
<b>【ぬ】</b>	
塗りつぶしの色	15
<b>【は】</b>	
倍精度浮動小数点数型	137

配列	11
バリエーション型	137
範囲	91, 98
反復処理	144
<b>【ひ】</b>	
比較演算子	67, 142, 143
引数	67, 151
日付型	137
表計算ソフト	1
表示	6
表示形式	12
<b>【ふ】</b>	
ファイル	6
フィルハンドル	13
フォントの色	15
複合グラフ	40, 55
ブック	3
——を新規作成	120
——を閉じる	120
——を開く	120
——を保存	120
太字	15
ブル型	137
プロシージャ	121, 148, 150
フローチャート	141
プロパティ	127
分割ボタン	9
分岐	141
分岐処理	142
<b>【へ】</b>	
平均	27
ページレイアウト	6
別形式で保存	120
ヘッダー/フッター設定	124
ヘルプ	9
変数	136, 139
<b>【ほ】</b>	
棒グラフ	40, 42
ボタン	129
ホーム	6

<b>【ま】</b>	
マクロ名	116
<b>【め】</b>	
メソッド	127
メッセージボックス	130
メニューボタン	7
<b>【も】</b>	
文字コード	81
モジュール	121
文字列型	137
<b>【ゆ】</b>	
ユーザインタフェース	2
<b>【よ】</b>	
横棒グラフ	51
<b>【ら】</b>	
ラベル	9
ラベルオプション	51
乱数	83
<b>【り】</b>	
リボン	4
<b>【る】</b>	
ループ処理	144
<b>【れ】</b>	
レーダーチャート	40, 51, 53
列	5
列番号	91
<b>【ろ】</b>	
論理演算子	142, 143
論理値	11
<b>【数字】</b>	
3-D100%積み上げ縦棒	45
3-D集合縦棒	45
3-D積み上げ縦棒	45
3D棒グラフ	45, 46

<b>【A】</b>		<b>【I】</b>		<b>【S】</b>	
ActiveCell	126	If	141	Selection	126
ActiveSheet	124, 127	IF 関数	67	Set	138
ActiveWorkbook	120, 127	——の入れ子	67	Single	137
And	142	INT	27	SQRT 関数	82
AVERAGE	27	Integer	137	String	137
		INT 関数	79	SUM	27
<b>【B】</b>		<b>【L】</b>		<b>【T】</b>	
Boolean	137	Long	137	TODAY()関数	108
Byte	137	LongLong	137	TRUE	67, 142
				TRUE (近似値型)	91, 97
<b>【C】</b>		<b>【M】</b>		<b>【V】</b>	
Cells	126, 147	MOD 関数	78	Variant	137
CODE 関数	81	MONTH(日付)	110	VBA	115
CONCATENATE 関数	77	MsgBox	130	Visual Basic エディタ	117
Currency	137			VLOOKUP 関数	91, 98
<b>【D】</b>		<b>【N】</b>		<b>【W】</b>	
Date	137	Not	142	Workbooks	120, 127
DATEDIF(開始日, 終了日, "単位")	109	NOW()関数	108	Worksheets	124, 127
DAY(日付)	110			<b>【X】</b>	
Dim	136	Object	137	xlsm	118, 119
Double	137	Offset	147	xlsx	19, 119
		Or	142	Xor	142
<b>【E】</b>		<b>【P】</b>		<b>【Y】</b>	
Excel マクロ有効ブック	118	PDF で保存	120	YEAR(日付)	110
		POWER 関数	82		
<b>【F】</b>		<b>【R】</b>			
FALSE	67, 142	RANDBETWEEN 関数	83		
FALSE (完全一致)	91	RAND 関数	83		
For	144	Range	126, 127, 147		
		RANK 関数	67		
<b>【H】</b>					
HLOOKUP 関数	91, 98				

— 著者略歴 —

**大堀 隆文** (おおほり たかふみ)  
1973年 北海道大学工学部電気工学科卒業  
1975年 北海道大学大学院工学研究科修士課程  
修了 (電気工学専攻)  
1978年 北海道大学大学院工学研究科博士後期  
課程修了 (電気工学専攻)  
工学博士  
1978年 北海道工業大学講師  
1981年 北海道工業大学助教授  
1993年 北海道工業大学教授  
2014年 北海道科学大学教授 (名称変更)  
現在に至る

**深井 裕二** (ふかい ゆうじ)  
1987年 北海道工業大学工学部電気工学科卒業  
1987年 北海道総合電子専門学校教師  
2008年 北海道工業大学講師  
2014年 北海道科学大学講師 (名称変更)  
現在に至る

**西川 孝二** (にしかわ こうじ)  
1996年 北海道大学工学部精密工学科卒業  
1998年 北海道大学大学院工学研究科修士課程  
修了 (システム情報工学専攻)  
2002年 北海道大学大学院工学研究科博士後期  
課程修了 (システム情報工学専攻)  
博士 (工学)  
2002年 ソフトバンク・コマース株式会社  
(現ソフトバンク BB 株式会社)  
2004年 北海道自動車短期大学講師  
2007年 北海道自動車短期大学准教授  
2014年 北海道科学大学准教授  
現在に至る

例題で学ぶ **Excel 入門**

Introduction to Excel with Examples

© Takafumi Oohori, Yuuji Fukai, Kouji Nishikawa 2014

2014年4月25日 初版第1刷発行



検印省略

著者 大堀 隆文  
深井 裕二  
西川 孝二  
発行者 株式会社 コロナ社  
代表者 牛来真也  
印刷所 萩原印刷株式会社

112-0011 東京都文京区千石 4-46-10

発行所 株式会社 **コ ロ ナ 社**

CORONA PUBLISHING CO., LTD.

Tokyo Japan

振替 00140-8-14844 · 電話 (03)3941-3131 (代)

ホームページ <http://www.coronasha.co.jp>

ISBN 978-4-339-02478-4

(大井) (製本: 愛千製本所)

Printed in Japan



本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製・転載は著作権法上での例外を除き禁じられております。購入者以外の第三者による本書の電子データ化及び電子書籍化は、いかなる場合も認めておりません。

落丁・乱丁本はお取替えいたします